

8月から2月 越前市の職員に対し、人材育成研修を実施



今年度、一陽は、越前市の人材育成・職員研修に全面的に協力しました。具体的な活動は以下のとおりです。

8月22日 統括所長が、越前市役所会議室にて民間派遣研修対象者に対し、派遣研修時の心構えについてオリエンテーションを実施

11月29日 統括所長が、越前市新採用職員(25名)に対し、施設経営に関する講義を実施。

1月11日から2月21日 一陽にて、越前市の中堅職員4名(男女各2名)に対し、各3週間(計12週間)にわたり職員研修を実施。

一陽では、他者に対して自らの仕事の意義や内容を説明するという作業は、自らの知識を整理しブラッシュアップするとともに、(養育に不可欠な)相手に自らの思いを伝える技術を高めることに繋がると確信しています。

その意味で、一陽は、これからも越前市職員への人材育成研修をはじめ、大学の実習指導や特別講義等に積極的に関わらせていただきたいと思います。

2014.3.26

三月上中旬 中学校を卒業した子どもたちと食事作り



中学校を卒業した子どもたちと空いてる時間に食事作りを行っています。

高校生になると部活やバイト等で忙しくなるため食事作りをする機会があまりありません。

今の時間を有効活用して材料を切ったり調理したりと様々な作業をしています。

また、食育指導員と共に一日作業をしたり、一人暮らしで必要な知識を提供したりと退所後に向けての取り組みも行っています。

2014.3.18

3月9日 地元子ども会の「6年生を送る会」に参加しました



3月9日、一陽の地元町内である行松町子ども会の6年生を送る会に参加しました。最初は行松会館にて紙芝居を聞いたりビンゴ大会に参加したり。その後は、昼食もかねて越前そばの里の工場を見学し、最後は6年生のあいさつで締めくくりました。しっかりとあいさつをする姿に子どもたちの成長を感じました。

2014.3.1

3月3日5日 児童養護施設としての第三者評価を受けました



平成 24 年度から三年に一回の第三者評価が児童養護施設に義務付けられたことに従い、3 月 3 日と 5 日の両日、一陽としては初めての第三者評価を受けました。初日は書面調査を受けたあと 3 名の評価者の方々にホームに入っていただき子どもたちと一緒にご飯を食べながら、子どもたちや処遇職員といろいろなお話をされました。

この日はひなまつりということもあり、ひなまつり仕様のいつもより豪華な雰囲気夕食となりました。

二日目は施設見学をした後に聴取調査が行なわれました。今回の第三者評価を受けて一陽の新たな課題が見えてきました。より良い一陽を構築していくための第一歩として、評価を真摯に受け止め、職員一丸となつて一陽を飛躍させるための課題に取り組んでいきたいと思ひます。

2014.3.11

2月下旬 5施設の方々が、連日、視察来訪されました



2 月 25 日は名古屋市にある「ゆうりん」のみなさん 5 名、26 日は佐賀県にある「洗心寮」と福岡県にある「誠慈学園」と山口県にある「防府海北園」のみなさん 7 名、28 日は三重県にある「エスペランス桑名」のみなさん 2 名が、「一陽」に視察来訪されました。

まずはそれぞれ施設見学をしていただき、その後は意見交換を行いました。小舎制施設としての運営の在り方を中心に話し合いが進められました。

今回来訪された施設の取り組みや方針は共感できる部分がたくさんあり一陽としても大変参考になりました。次は是非一陽から視察に伺わせていただきたいと思いますと思ひほど、学びの多い有意義な交流となりました。

2014.2.28

2月17日 県内施設心理士合同研究会を開催しました。



2月17日、児童養護施設「一陽」で、県内の児童養護施設職員をはじめとした関係機関を対象として「児童養護施設における心理療育」というテーマのもと合同研究会を開催しました。

児童福祉の分野でご活躍されている仁愛大学の荒川正吉氏を講師として迎えてご教示いただきました。講義の内容はアタッチメントに関する最新の知見や子どもに関わっていく上での姿勢など初心に戻る思いとなる研究会となりました。

また施設同士の意見交換も行われ、こうしたネットワークを通しながら今後も子どもたちにより良いケアを提供していくことに努めていきたいと思えます。

2014.2.25

2月15日 チョココランチをつくりました



バレンタインを意識し、子どもたちとチョコランチ作りを行いました。

板チョコレートを溶かし、パン粉やマシュマロ、くるみなどを混ぜたものを成型し冷やし固めるといった簡単なお菓子です。

手がチョコ一面になりながらも楽しそうに丸めていました。

2014.2.25

2月4日 大分県児童養護施設協議会の皆さんが視察来訪されました



2月4日、大分県児童養護施設協議会の皆さん(9施設・15名)が遠路はるばる、児童養護施設「一陽」を視察来訪されました。施設見学の後、現在「一陽」が実践している地域との協働や行政との連携による取り組みについて説明しました。

とくに、越前市の行う乳幼児健診への支援や生活保護家庭児童への支援など、児童養護施設及び児童家庭支援センターと、基礎自治体との連携事業について活発に質疑が行われました。

また大分県では、既に退所児童等アフターケア事業が実施されていたり、里親委託率が30%を超えていたり、私たち一陽が今後見習っていききたい先進事例も数多くあり、こちらとしても、とても学びの多い交流となりました。

2014.2.4

1月29日 武生工業高校 PTA から学校祭での収益ご寄附いただきました

1月29日、武生工業高校 PTA の柿谷会長、橋本総務委員長、そして同校の直正校長が一陽を来訪され、昨秋の学校祭で販売したそばの収益の一部をご寄附いただきました。

同校 PTA ではこの 15 年間、学校祭で「匠(たくみ)そば」と銘打って保護者の皆さんが手打ちそばを地域の人たちにふるまっています。一陽に対してのご寄附は現在地で新築スタートした一昨年から続けられているものです。

当日、柿谷会長からは「一陽でくらす子どもたちの生活の中で活用してください」の言葉をいただき、受け取った友兼常務理事は「行事や生活の中で有効に使わせていただきます」と感謝を述べました。

2014.2.4

たくさんのお菓子 「ビック」さん、「クアトロブーム」さん、ありがとうございます



この数年間、定期的にパチンコの、ビックさん・クアトロブームさんよりお菓子のご寄付を頂いております。

子供たちは毎日、たくさんのお菓子の中からどれを食べようか目移りしながら選んでいます。

いつもたくさんのお菓子本当にありがとうございます。

2014.1.31

1月25日 県立大学社会福祉学科の皆さんが一日学習



1月25日、福井県立大学社会福祉学科の皆さん15名が「一陽」を訪れ、午前10時30分から午後3時までの間、児童養護施設や児童福祉行政についての研修と施設内見学が行なわれました。

研修では、児童養護施設を巡る最近の状況、「一陽」の概要、児童養護施設の課題と将来像などについて、一陽の役職員が講義を行い、施設内を案内しました。

講義の中では、入所の児童と保護者の関係、自立に向けての具体的な取り組み、日常生活や学校との関わり、里親制度の活用や実態など幅広い質問が行われ、意義ある学習内容でした。

2014.1.29

福井県共同募金会様よりビデオなどご寄付いただきました



NHK歳末たすけあいによるご支援で、一陽にもジュニア布団とビデオカメラのご寄付を賜りました。あたたかい浄財をお寄せいただいた県民の皆様には感謝いたしますとともに、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

2014.1.21

新年おめでとうございます。お正月は華やかな「おせち料理」を楽しみました



今年の年明けも昨年同様、雪も少なくお天気に恵まれたお正月でした。

お正月は食育指導員がおせち料理を手作りし、それぞれ各ホームでお祝いしました。栗きんとんの茶巾絞りはラップを使って子供達と一緒に手作りました。

おせち料理は重箱に詰め、食材についての説明や、おせちの意味などが書かれたカードを付けました。

ふだんは見られない「おせち料理」に子どもたちは興味津々でした！！

2014.1.6

12月24日 ☆ ホームでクリスマスパーティー ☆



12月24日、毎年恒例行事のクリスマスパーティーを行いました。ホーム単位で行うこともあれば、2ホーム合同で行うこともあります。この日は食事の用意をおまかせしており、子供達のリクエストや予算を基にメニューを決定しています。お寿司やチキンなどがたくさん食卓に並び、子供達は瞳を輝かせながら食べていました。

また、住友生命さんや個人様からのケーキや、シャンメリー協会さんからのシャンメリーのご寄付などを頂きとても盛大で豪華なクリスマスとなりました。本当に有難うございました。

2013.12.27

12月23日 クリスマス 素敵なお SANTAさんからの様々な贈り物



12月23日、今年も武生製麺さんがプレゼントをたくさん担いで来て下さいました。突然の訪問に子どもたちはビックリしながらも大興奮で終始笑顔いっぱいでした。SANTAさんに握手を求めたり、抱っこしてもらったりと、子供達はとても興味津々でした。

また、当日のSANTAさんの他にも、クリスマスを前に県内外から、個人、企業、労組の方など色々な方々からプレゼントが届きました。内容もお菓子、おもちゃ、現金などお手紙とともに心のこもったものばかりで、子どもたちも職員一同も感謝の気持ちいっぱいです。みなさん有難うございます。

2013.12.27

新一年生へ、今年もランドセルのプレゼント届きました



新年もあと一週間で訪れますが、春になれば「一陽」から新一年生四人が誕生の予定です。そんな子どもたちに今年も越前市出身で東京在住の方から小学校指定のランドセルが贈られてきました。例年のことですが、とても有難く職員一同感謝しています。ありがとうございます。

さっそく四人の子どもたちにプレゼントを渡しました。子どもたちは待ちきれないようにランドセルを開け、中を覗き込んだり、背負ったりして嬉しそうにはしゃいでいました。

2013.12.24

クリスマス 村田労組、日信労組さん、今年もありがとうございます



連合丹南地域協議会に集う福井村田労組さん、日信化学労組さんが、今年もおいしいクリスマスプレゼントを届けてくださいました。

赤くて艶々のりんごや多種多様なジュース類をたくさんいただきました。

子ども達も職員も感謝の気持ちでいっぱいです！！いつも本当にありがとうございます。

2013.12.24

12月11日 社会的養護研究セミナー「生と性を育む養育」を開きました



12月11日、一陽では、今年4回目となる社会的養護研究セミナー(市民学習会)を丹南市民自治研究センターなど地域のNPOの皆さんの協力を得て開催しました。

今回のテーマは、「生と性を育む養育」、講師は児童養護施設遥学園(大阪府)の児童指導員で「人間と性」教育研究協議会児童養護施設サークル代表の中井良次先生でした。自治体の児童福祉関係者や里親さん、近隣の児童養護施設からの参加者を合わせ40名での学習会となりました。

学習会は二部構成で行われ、第一部では中井先生が性教育を導入し始めた背景のお話から始まり、時代とともに変わりゆく性にまつわる社会問題、日常の中で起こる性に関する大人が困った場面など中井先生が長年にわたり研究されてきた内容をユーモアたっぷりに語られました。

第二部では、一陽の性教育委員会に所属する職員を中心に、実際に遥学園で行われている子どもを対象とした性教育学習会についてロールプレイを交えた模擬授業を行いました。

楽しむ性教育をモットーとした中井先生らしいお話で終始笑いが絶えないセミナーとなりました。性教育という響きから大人もつい身構えてしまいがちですが、今回のセミナーを通して、性の根幹にある生を子どもたちと楽しく語り合う中で「あなたはかけがえのない大事な存在」というメッセージを子どもたちに伝えていくことが大切であることを学びました。

2013.12.13

12月8日 **ロールケーキタワーを作りました！**



クリスマスも近いこともあり、ツリーに見立てたロールケーキタワーを子供達と一緒に作りました。女の子と男の子で表現力が異なっていたことがとても興味深かったです。

女の子はお店でデコレーションされたようにお皿にまで可愛らしく飾り付けをしていましたし、男の子は大胆に時には慎重に飾り付けをしていました。また、ポッキーをロウソクにして灯りを生クリームで表現する等のアイデアも見られました。

共同作業は協調性や役割分担が大切ですが、仲良く上手に作業出来ていて終始笑顔が見られました。

2013.12.10

12月4日 **名古屋の名広愛児園のみなさんが視察来訪されました**



12月4日、名古屋市の名広愛児園の4名のみなさんが視察来訪されました。名広愛児園は2年前にも施設長の渡部先生をはじめとした職員さんが来訪しており、2度目の視察となります。

職員のみなさんは以前と異なるメンバーだったので、まずは施設見学を行い、その後は今後小舎制に移行していくということを踏まえて自立支援に向けた取り組みの効果と課題、小舎制における職員の労働課題等、また同じ施設職員として共感できる悩みも多く、熱心な意見交換が行われました。

2013.12.6

11月30日 **北電労組さん、クリスマスイルミネーションありがとうございます**



11月30日、北陸電力労組福井県支部・丹南部会の皆さん八名が「一陽」を訪れ、冷たい雨の中、玄関横の広場にクリスマスイルミネーションを設置していただきました。

子どもたちは暗くなるのを待ち望み、当日の五時過ぎに職員と児童そろって見守る中で点灯されました。高さ四メートル近い電飾と昨年から飾られている三人のサンタと新たに加わったスノーマンに児童たちは、写真を撮ったりサンタにプレゼントをお願いしたりして楽しいひと時を過ごしていました。

北電労組さんには昨年も飾り付けていただき「一陽」の師走の風景にはなくてはならないものになりました。

2013.12.3

11月29日 **高浜町婦人福祉協議会の皆さんが視察来訪されました**



11月29日、高浜町婦人福祉協議会の皆さん21名が「一陽」に視察来訪されました。初めに児童養護施設の役割や全国の動き、そして「一陽」についての概要を説明し、その後に施設内の見学をしていただきました。

説明後の質問や意見交換では、子どもたちの日常生活やお小遣い、アルバイトの状況、入所後の家庭や保護者との関係、食育の具体的な取り組み、退所後の子どもに対する自立への支援対策などが話し合われました。施設内の見学では、家庭的な雰囲気の小舎ユニット型に新たな認識をされ、児童養護施設がこのように温かい感じで子ども達を育てられている様子に感心しましたとの感想などをいただきました。

2013.11.29

11月24日 全国児童養護施設長研究協議会

「一陽」の橋本統括所長が シンポジストを務める



11月22日、三重県で開催された第67回全国児童養護施設長研究協議会の全体シンポジウムに、橋本統括所長がシンポジストとして登壇。「一陽」の地域支援に関する実践事例を報告しました。

橋本統括所長は、「一陽では、児童養護施設とは、本来、入所児童のみならず、地域に暮らす全ての子どもたちにとっての人権保障機関であり、最後のセーフティネットである。との理念のもと、地元自治体(越前市)や地域の福祉系市民活動団体との協働を前提に、生活保護家庭児童への支援や乳幼児健診支援、スクールカウンセリング、さらには里親支援や退所児童へのアフターケア等に取り組んでいる。」と、報告しました。

また「人が他者との関係性の中で変容し成長していくように、組織も他の組織との協働の中で、イノベーションしていくべきである。NPOとの協働では、その明るさや躍動感、ミッションの明確さから、自主性・自発性の大切さを学ぶことができるし、行政との連携では、情報公開への姿勢や文書・財務管理の堅実さなどから、公共とは何か？をしっかりと学ぶことができる。」と、協働に関する持論を展開しました。

2013.11.26

11月17日 市民活動交流の場・土といのちの会「収穫祭」に今年も出店しました

NPO法人土といのちの会が主催する収穫祭が今年も蔵の辻で開催されました。



11月11日 振替休日に、子どもたちとピザトーストを作りました



11月11日(月)昼食にピザトーストを作りました。

この日は小学生が振替休日だったので、職員と一緒にピザトーストを作りました子供達はパンを食卓の上に並べて、具をこぼさないよう慎重にのせていました。

ピザトーストは材料も少なく火を使わずに調理することが出来るため、退所後一人暮らしをした時にも役立つメニューです。

このように簡単に出来るクッキングを今後も行っていく予定です。

2013.11.12

11月10日 福井県インターンシップ報告会「一陽」が 受け入れ企業代表で報告



11月10日、福井市の福井県自治会館で開かれた平成25年度「福井県インターンシップ」報告会で、インターンシップ受け入れ企業を代表して「一陽」の若手職員が受け入れの理念や児童養護施設の内容、具体的な受け入れ内容などを報告しました。

県内の各大学と高専の学生、県経営者協会、企業の皆さん約200名を前にして発表した一陽の就職三年目の職員は「とても緊張しました」との感想を述べながらも堂々とした発表で送り出した先輩たちも一安心の様子でした。

また、経営者協会の担当の方からは、「参加した学生からは、良い話で自分も児童養護施設で研修を受けてみたいとの感想も寄せられた」との事後報告もいただきました。

2013.11.12

11月3日 **たけふ菊花マラソン、子ども達も職員も走りました**



11月3日、恒例のたけふ菊花マラソンが開かれ、一陽からも子ども達や職員多数が参加し、菊かおる越前市の中心市街を元気いっぱい走りました。

今年の選手宣誓は南小学校の児童たちが行いましたが、一陽の児童も仲間たちと一緒に大きな声で宣誓の声をあげていました。

2013.11.5

11月1日 **ハロウインの献立を楽しみました**



11月1日の夕食はハロウインを意識した献立でした。

ハロウインは正確にいうと10月31日～11月2日です。

一般的に知られているはハロウインイブになるようです。

子ども達は学校で習ったのか「トリック・オア・トリート」と何度も言いながら嬉しそうに食事をしていました。

2013.11.5

10月21日 青空のもと、にぎやかに芋ほりしました



10月21日、いつもお世話になっている小嶋さんの畑で芋掘り体験をさせていただきました。

前日夜に雨が降っていたため天気が心配でしたが、晴れて芋掘り日和となりました。

子ども達は掘っていくうちにコツをつかみ次々と大きなさつまいもを掘っていました。

これからどう調理して食べようか考えるだけで楽しみです。

沢山のさつまいもを掘らせていただき本当にありがとうございました。

2013.10.22

10月18日 三重県の二つの施設から視察来訪がありました

鈴鹿里山学院・津市たるみ児童福祉会館の方々です



10月18日に三重県にある鈴鹿里山学院と津市たるみ児童福祉会館の心理士さん2名が一陽に視察来訪されました。

まず施設見学をしていただき、その後は大舎制から小舎制に移行してからの職員や子どもの変化についての話し合いが行われました。

三重県でも大舎制の施設は順次小舎制やユニットケアに移行していているようなので、また移行後の様子について意見交換ができる機会が設けられればと思います。

2013.10.19

10月18日 「一陽」の橋本統括施設長、「世界の児童と母性」に論文掲載



このほど10月1日付で公益財団法人「資生堂社会福祉事業財団」より発行された「世界の児童と母性」の季刊誌特集の中に一陽の橋本達昌統括施設長の論文が掲載されました。

論文は、子どもの最善の利益としての特集にちなみ「子どもの進路決定における子どもの最善の利益と自己決定の尊重」をテーマとして一陽の児童が入所から高校生活や部活動を体験しながら地域の有力企業に就職する過程や、それを見守り支援する職員たちの取組みを施設長の立場から考察した内容です。

関心ある皆さんにご一読いただければ幸いです。

2013.10.18

10月16日 敦賀児童相談所と嶺南地域の相談員の皆さんが視察来訪されました



10月16日、敦賀児童相談所をはじめとする嶺南地域の相談員のみなさん5名が児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。

まずは施設見学をしていただき、その後は小舎制養護の在り方や一陽での実践について熱心な話し合いが行われました。

子どもたちを支援していく上で児童相談所等との連携は欠かせないので、このように一陽を知っていただける機会を持てたことは幸いです。

2013.10.18

10月12日 行松町内の秋まつりでお神輿を担ぎました



10月12日、{一陽}の地元町内である行松町のお祭りがあり子ども神輿がにぎやかに町内を練り歩きました。一陽の子どもたち17名と職員もお揃いの法被を着て、大きな掛け声を上げながら参加しました。

また、例年通り一陽の前の広場はお神輿の休憩所となり、職員総出で皆さんに飲み物やお菓子を配り接待役を務めました。疲れた顔を見せた子どもたちは束の間の休憩時間にジュースやお菓子でしっかりエネルギー補給。ゴミをしっかりと後始末をする行儀のよさに感服です。

午前中は天気心配されましたが、午後からはさわやかな秋晴れとなり威勢の良い神輿の練り歩きを楽しむことができました。

2013.10.15

10月9日 自治労政策局の方が視察来訪されました



10月9日、全国の自治体職員や自治体関連職員で組織されている自治労の政策局の方が一陽の視察に来られました。

公立から民営へ移管された経過や、非正規職員として働いていた職員の思いと活動、市民による 1000 万円の福祉法人設立カンパ活動、その後の新施設建設、現在の運営状況、市民や地域との連携など多方面の分野で意見交換が行われました。

2013.10.11

9月26日 **幼児も参加できるお菓子づくり 白玉だんごをつくりました**



幼児さんから参加できるお菓子作りということで、今回は 9/16・26 と 2 回に分けて白玉団子作りを行いました。

同じ白玉団子でも 1 回目はフルーツパンチ、2 回目は黒蜜きな粉をかけて異なる味わいを楽しみました。小さい子でもとても上手に丸められていて、大きさの違いがあっても手作り感がでていてとても良かったと思いました。

2013.10.1

9月22日 **南地区の総合防災訓練に子どもたちが参加しました**



9月22日、南地区自治振興会総合防災避難訓練・南越消防総合訓練が実施されました。

早朝より大勢の地区住民が武生第2中学校に集合し、消防署員・振興会による警防訓練を見学しました。

訓練では実践さながらの救助活動が目の前で展開され、一陽の子どもたちは緊迫した空気を感じながら、貴重な体験をしていま

した。

2013.9.24

9月20日 **鯖江市南部民児協議会の皆さんが視察来訪されました**



9月20日、鯖江市南部民児協議会の皆さん8名が視察来訪されました。最近の社会的養護の現状と一陽の概要、施設の見学など約一時間半、熱心に視察いただきました。

意見交換の中では、児童養護施設を退所した後の対応や、入所児童の心の変化と成長の経過、職員のケアの内容などについての質問がありました。みなさん、日ごろの活動の中で具体的な児童相談や虐待などの発見も経験されておられ、行政との連携の重要性も話し合われました。

2013.9.20

9月10日 **来年度の新規採用職員面接選考が行われました**



9月10日、午後2時より来年度の新規職員採用試験が一陽で行われました。今回の採用予定は児童の直接処遇を行う職員であり、選考には共に働く仲間を自分たちで決めるため現場の直接処遇者が面接しました。

受験者のみなさんは児童福祉に対する熱意を語り、質問にも的確な答えを返され、全員のレベルの高さに選考に当たった職員一同驚いていました。採用予定人員は2名で採用の可否は後日に受験者に直接通知されます。

今年の四月に採用された職員(堀江さん)のメッセージが(日本福祉大学)のWEBページに紹介されていますので、ご一読ください。

<http://www.n-fukushi.ac.jp/gakubu/kodomo/nlpdf/10.pdf> 堀江さんは福井県高志高校の出身です。

2013.9.13

9月4日 **岐阜聖徳短期大学:小玉ゼミの皆さんが視察来訪**



9月4日、岐阜聖徳短期大学の小玉先生と2年生3名が視察に来られました。

皆さん、施設実習を経た上で、乳児院や児童養護施設への就職を希望しているとのこと、施設見学後、長時間にわたり実践的な質疑応答が行われました。

子ども達への思い溢れるフレッシュな彼女たちが、社会的養護の実践現場に、新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。

2013.9.6

9月3日 **障害者当事者団体[コムサポートプロジェクト]のみなさんが視察来訪**



9月3日、福井市を中心に障害児・者の権利擁護や自立生活支援事業、障害者へのホームヘルプサービス事業などを展開している障害者の当事者団体NPO法人コムサポートプロジェクトの皆さんが、昨年引き続き、新しい仲間と一緒に一陽に視察来訪されました。

まずは施設を見学していただいたあと、福祉現場に関する交換意見が熱心に行われました。これからも定期的に交流しながら、お互いにエンパワメントができる場にしていきましょうと話されました。

2013.9.6

8月28日 一陽で「避難.総合訓練」を実施しました



先日、8月28日、南越消防組合中消防署の署員2名の方に来所していただき、児童養護施設一陽にて総合訓練を行いました。毎月実施している避難訓練とは違い、普段している避難訓練を署員の方に見ただくことで、消火器の位置、通報する際の順序、避難場所への誘導の手順等、再度確認することができました。

消火訓練においては、消火器の利用の仕方、注意事項を署員の方に教えていただき、子供たちは皆、積極的に訓練に参加しました。消火器の利用は一本15秒から17秒！3メートル先まで消火することができる！の言葉を子供たちは真剣に聞いていました。

2013.8.30

夏休みの宿題 「夏休みのお手伝いの宿題」は「お昼ご飯づくり」です



「夏休みのお手伝いの宿題」を活用し、子どもたちのローテーションを組み食育指導員と主に昼食をつくりました。昨年続く取り組みです。

先生と子どもが対一で行うため、一人一人に丁寧に教えることができるのが、この取り組みの大きなメリットです。

子どもたちとつくった内容は「食育の記録」として保存して

います。

この記録は処遇職員にも見てもらい、子どもたちの新たな一面をみつけたり気づいてもらえる効果もあるようです。

2013.8.30

8月24日 「楽天生命」代理店の皆さんが視察訪問



8月24日、平成22年度より毎年、自動車やパソコン、情報システムなど、子ども達の日常生活に必要な備品を多数ご寄付いただいている楽天生命代理店の皆さんが一陽を視察訪問されました。

視察の中では、施設の状況や一陽の取り組みなども熱心にお聞きいただき、一層のご理



解を賜りました。

また、その後、子どもたちとの交流はもとより、窓ふきや(階段など普段行き届かない箇所)のお掃除もしていただきました。蒸し暑い中での作業で御苦労をおかけいたしました。

「楽天生命」の皆さん、毎年のご寄附の上に今回の視察訪問ありがとうございました。

2013.8.27

8月14日 **お盆の日、夕食に「お好み焼き」をつくりました**



8月14日はお盆の日、帰省する子どもたちも多いですが、残る子供たちは普段の夕食ではなかなかできない「お好み焼き」メニューに挑戦しました。

必要な材料が四つのホームに配られ、そのホームごとに好きな形での味付けが行われました。

自分たちで焼く手作りお好み焼きに子どもたちは準備から焼き上げて食べるまで、ずっと楽しそうで、みんなが口をそろえて「おいしい、おいしい」と大喜びでした。

2013.8.16

8月8日 **東京・豊島区議会の皆さんが視察来訪されました**

8月8日、東京の豊島区議会の「自治.みらい議員団」六名の皆さんが「一陽」に視察来訪されました。

最近の社会的養護をめぐる状況の中で、今後、都から特別区へ児童養護や子育てに関する事業と権限の移行が推測されるということでの視察来訪でした。



意見交換では、子ども一人あたりの職員の配置基準、国の財政面での動き、大舎制と小舎制度、児童の生活面、入所後の両親や保護者との関わり、行政との連携など多方面での質問がありました。この後の施設内見学では「子どもたちが自分の家として生活していることが実感できた」などの感想もいただきました。

2013.8.8

8月5日 南小学校の先生方が一陽を視察し交流会を開きました



夏休み中の8月5日、南小学校の先生7名が一陽に訪され子どもたちの生活場面を見学し子どもたちと交流しました。子どもたちは突然の訪問に驚きつつも久しぶりに先生方に会えてとても嬉しそうな顔で自分の部屋を自慢げに見せたり夏休みの出来事を話し楽しい時間となったようです。

施設を見学し子どもたちとの交流の後は、先生方に加え、南地区自治振興会役員の皆さんも一緒に意見交換会を行いました。一陽側にとっては、普段なかなかお話しする機会のない先生方や地域の皆さんとの意見交換ができ、今後とも互いの連携を図りながら子ども達にとってより良い支援を考えていきたいと改めて感じる機会でした。

暑い中、南小学校の先生方、南地区自治振興会の皆さん、ありがとうございました。

2013.8.8

8月1日 **産経新聞全国版で「一陽」の取り組みが紹介されました**



8月1日の産経新聞で児童養護施設「一陽」の取り組みが、児童養護施設の小規模化と社会的養護の充実の視点から具体的事例として大きく紹介されました。

これは、6月に一陽へ視察に来られた「佐藤好美」記者が書かれた記事です。一陽の子どもたち、施設内容、小舎と大舎の比較、食育、職員の働き方、制度の課題、など幅広的確に紹介され課題も指摘されています。

ぜひ、一度、この記事をご覧ください。

産経新聞記事は、こちらをクリックしてください。[2013.8.1sankei.pdf](#)

2013.8.2

7月12日 福井市成和地区児童民生委員の皆さんが視察来訪されました



7月12日、福井市成和地区児童民生委員の皆さん8名が一陽に視察来訪されました。初めに施設見学を行い、一つの家庭のように少人数での生活実態に触れ、最近の児童養護施設について新たな認識とイメージを感じられたようでした。

その後の研修では、一陽が力を入れている心理面でのケア、学校や地域との細やかな連携、多数の寄付受け入れ、里親支援のあり方など、幅広い質問と意見交換が行われました。また、帰りにはご寄附もいただき有り難うございました。

2013.7.12

7月7日 セタには、特別メニューの「星型メンチカツ」

7月7日は七夕ということで、夕食には特別メニューが登場しました。それは「星型のメンチカツ」、思いがけぬ七夕メニューに子どもたちは大喜びで、お腹も笑顔もいっぱいのような様子でした。ホームごとに飾られた七夕短冊の願い事も、どうか叶いますように!!



2013.7.8

7月6日 「一陽」で生産?の「玉ねぎ」でカレー、一味ちがう思いを子どもたち味わう

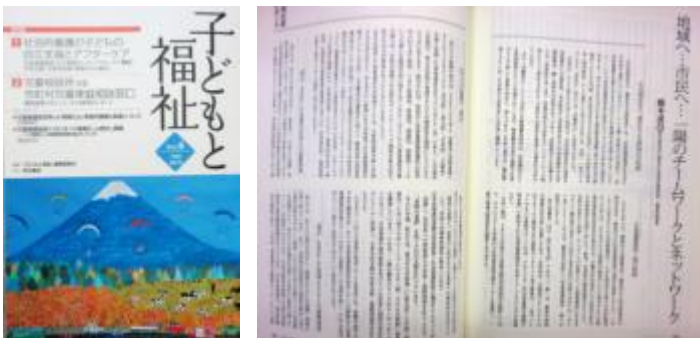


7月6日、男子ホームでカレーづくりを行いました。楽しそうに、時には真剣な表情で取り組んでいました。今回の体験で食べること・作ることへの興味が広がるとうれしいです。今回使ったたまねぎは、生ごみたい肥で土づくりから始めプランター栽培したものです。

昨年11月に苗を植え、冬を越して、春にぐんぐん成長していく様子を見守り、6月9日に収穫しました。子どもたちからはいつも料理に使われているたまねぎがこんなふうにできることへの関心の声や、カレー作りを楽しみにする声が聞かれました

7月1日 明石書店発行「子どもと福祉」

一陽の橋本統括施設長、「地域へ、市民へ.....」のレポート発表



7月1日に発行された明石書店の「子どもと福祉」に一陽の橋本達昌統括施設長のレポート「地域へ、市民へ...一陽のチームワークとネットワーク」が掲載されました。

レポートでは、2005年秋に市民500名による1000万の寄付によって法人設立が行われ、2006年に指定管理者制度による施設運営を始め、2011年には新施設「一陽」を小舎制ユニット型として新築スタート、2013

年には児童家庭支援センター設立など、法人と一陽の軌跡の紹介や、地元自治体との新たな協働事業の展開、多くのNPOとの連携事業、一陽の職員研修、組織の資質向上、さらに今後は「一陽は、社会的養護の冒険王になる」といった意気込みなども記されています。

「子どもと福祉」は年に一回発行される専門書です。ぜひ、当施設「一陽」の橋本統括施設長のレポート、ご一読いただけたらと思います。

2013.7.1

6月28日 里親制度推進セミナーを開き、50名が参加しました



6月28日、児童養護施設「一陽」で、里親セミナーが開催され、福井県、越前市、NPO 団体、福祉関係者、一陽の職員など50名が参加しました。セミナーでは、講師の「水野正伸」さん(県里親会理事、県社会福祉士会会長、福井医療福祉専門学校教員)から、ご自分の体験を踏まえた「里親経験を通して、養育、を考える 高学齢児の進学・自立支援」のテーマで講演が行われました。主な内容は下記の通りでした。

里親は初めから深く考えすぎない、「子どもを救えるのは自分しかない」といった大それた考えは持たないことが良いと思う。里親としては高校生二人を養育しているが、細かい指示はあまりしない、大学への進学への条件づくりとして高校授業料の免除などは学校に要請してかなえてもらった。クラブ活動や買い物など、自分で考えてやってもらう。高校生だと年齢的に人格形成が進んでいるので、彼らが里親家庭を利用しているという感覚の中で共に過ごしている。

里親宅で生活するには、それなりの「強さ」が彼らにあるのではないかと。だから口やかましく言う必要はないが、自分のために里親が色々気遣ったり行動してくれることは感じてもらえるように願っている。

大事なことは、里親が頑張って彼らの人生を導くことではなく、自分の歩みを自分で考え決めることができる環境を提供することではないかと思っている。その決めたことを見守っていく姿勢が必要だと感じている。

「一陽」では、里親支援専門相談員を配置し、月に一回の里親サロンをはじめ、地域への周知啓蒙活動など、里親制度に関する諸活動を継続していますが、今回のセミナーも意義深いものと参加者の声をいただきました。

2013.6.28

6月25日 **あわら市児童民生委員の皆さんが視察来訪されました**

6月25日、あわら市の児童民生委員の皆さん24名が児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。



はじめに児童養護施設や社会的養護の実態について説明を受け、子どもたちの入所後の心理面での変化や暮らし方について意見交換が行われ、施設内見学でも子どもたちの日常生活について熱心に多くの質問が行われました。

2013.6.25

6月18日 **仁愛大学生が施設見学に訪れました**



6月18日、仁愛大学の学生13名が授業の一環で一陽の見学にきました。

はじめに副理事長による講義で社会的養護について学び質疑応答を行った後、施設見学を実施しました。

熱心に質問したり、ノートをとる学生さんの姿が印象的でした。 2013.6.18

6月17日 美谷学園のみなさんが視察来訪



6月17日、岐阜県にある美谷学園の4名のみなさんが児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。まずは施設見学をしていただき、その後は小舎制養護について話し合いました。美谷学園も将来的に小舎制に移行することが決まっているそうで、処遇や課題、職員の働き方など小舎制児童養護施設の在り方について活発な意見交換が行われました

2013.6.17

6月15日 女子ホームでカレーづくり

6月15日、女の子ホームでカレーづくりを行いました。ホームのほとんどの子が参加し、材料を切ったり、炒めたりする表情は真剣そのものでした。今回はひき肉カレーにして、いつもと少し違った味わいのカレーをおいしそうに食べていました。



2013.6.15

6月14日 池田町の児童民生委員のみなさんが視察来訪

6月14日、池田町の児童民生委員のみなさん18名が児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。まずは、児童養護施設の役割と一陽の現状について説明したあと、施設を見学していただきました。視察の中では、子どもたちに対する地域支援の在り方や親支援の在り方について活発な意見交換が行われました。

また、皆さんから地元の池田町産米「舞いけだ」をプレゼントされました。こうした地域のみなさんに見守られながら、一陽の子どもたちはすくすくと育っています。ありがとうございます。



2013.6.14

6月8日 めだかサミットに参加しました

6月8日、子どもたちと職員が越前市内で開かれた「めだかサミット」に参加しました。日野川での魚探し、みんな網やバケツを使って一生懸命魚を捕まえました。

中には、『この魚は何の赤ちゃん？』『どうして川の石はぬるぬるしているの？』と興味津々の表情で先生に直接質問する子どもも見られました。生き生きとした顔で魚を追いかける子どもの顔がとても印象的でした。



2013.6.14

6月5日 「一陽での食育支援」について中部ブロック研究会で発表



6月4日から6日にかけて岐阜県高山市で中部ブロック児童養護施設・乳児院研究協議会「岐阜大会」が開かれました。

その二日目の分科会「施設の小規模化と自立に向けた食育支援アプローチ」のテーマの中で、一陽から参加した管理栄養士の職員が「一陽での食育支援」についての題目で、意見発表と活動の紹介を行いました。

発表した若い職員は、これを機会に他施設の取り組みや意見を参考にして、子どもたちにより良い支援を続けたいとしています。

2013.6.7

6月2日 南地区体育大会に参加しました



6月2日、『南地区体育大会』に子どもたちと職員が参加しました。心配された天気も、子どもたちの祈りが通じたのか、徐々に回復し、午後からは晴れ間が見えるほどになりました。

50m走、玉入れ、綱引き、リレーなどの競技に参加し、地域の方と共に、一生懸命頑張りました。結果は惜しくも「準優勝」でしたが、地域の方との交流が深まった、素晴らしい体育大会でした。

2013.6.4

5月25日 男子ホームで、人気のカレーづくり

5月25日、子どもアンケートの食育項目より、子どもたちから最も要望が多かったカレー作りを行いました。毎回、参加者を募り人数集約してから実施しています。今回は男の子のホームでしたが、ほとんどの子が参加し、終始楽しそうに作業していました。今後も子どもたちとさまざまな食事作りを続ける予定です。



2013.5.30

5月22日 社会的養護研究市民セミナーを開きました

自立生活センター コムサポートプロジェクトの吉田知栄美さんが講演



5月22日、児童養護施設「一陽」と児童家庭支援センター「一陽」は、NPO 法人自立支援ネット、NPO 法人丹南市民自治研究センター、NPO 法人ケアサポート春駒、などと共催し、「コム.サポート.プロジェクト」代表の「吉田知栄美」さんを招いての「社会的養護研究市民セミナー」を JR 武生駅前の仁愛大学サテライトで開きました。参加者は会場満杯の50名でした。

吉田さんは、難病による身体障害をかかえ車椅子の生活を続けながら「障害を持った人たちが当たり前に見える社会づくり」を目指して活動する「コム.サポート.プロジェクト」を2002年5月に設立し、「誰もが生まれ育った地域(場所)で自分らしく生活する」ことを目標に運動を続けている方です。



吉田さんは自分の障害や生活、運動の実態を紹介しながら主に下記のような話をされました。(お話の一部を抜粋して紹介します)障がい者自身、失敗しながら生活の力をつけていく気持ちが大事と思っている。

周りから失敗してもいいんだよと言われると気が楽になれる。障がい者自身の活動は本人が出来なかった経験をその人に取り戻す活動であると思っている。

障がい者に対する支援は、支援する側の思いで行われるが、支援を受ける側の思いや要望に寄り添ったものでなければ、その助けは本当のものにはならない。

特に役所の人たちは最初から「この枠の中でしかやれない、この枠の中で考えてください」と求める場合が多い。「枠」から考えるのではなく、障がい者の生活実態と本人が何をしてもらいたいのかに素直に耳を傾けてほしい。

障害は悪、健常は善というような見方があって、障害が治らなければ要らない人のように思われ、常に「頑張りなさい」と言われ、障がい者は劣等感を感じ自己嫌悪になる。障がい者も周りの人も、「頑張りなくてもいい」と言われると救われる。障がい者自身も、自分の現状を自分で認めなければ他人も認めてくれないのではと思う社会の人、みんな違っていいと思っている。自分の違いを大切にしたい。その違いを大切にできるなら他の人の違いも大切にできるようになると思う。

障がい者本人が声を出す、指示を出すことによって、声が伝わり、言葉に切り替わる。その声はゆっくりかも知れないから、周りの人たちもゆっくり聞いてほしい、伝えている途中で遮ったりしないでほしい。障がい者も自分を社会のお客にせずには主体者は本人だと自覚して活動したい。ぜひ、周りの人たちは本人たちの主体性に寄り添ってほしい。

私たちの事業でヘルパー派遣活動をやっているが、同性介助の方針で行っている。自分の全てを見せられることなど同性としての介助の視点を大切にしている。

自分たちが障がい者の思っていることを周囲にきちんと伝え言い続けることが私の大きな役割だと思っている。

一緒に考えてくれる人たちと話せたり理解してくれる人が増えると嬉しい。

障がい者の問題は、子ども達や高齢者の問題にも共通することが多く、互いに協力したり一緒に活動している物事にぶつかっていきたい。

[「コム.サポート.プロジェクト」のホームページもご覧ください。](#)

2013.5.24

5月5日 「ちびっ子フェスティバル」に参加しました



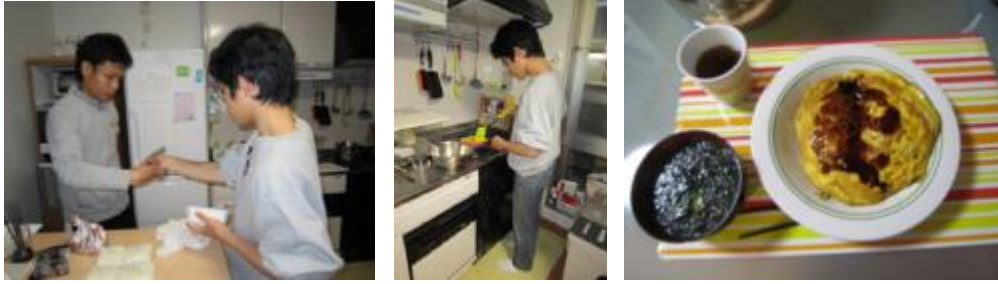
5月5日、越前市の中央公園(たけふ菊人形会場)で開かれた「ちびっ子フェスティバル」に子どもたちと職員が参加しました。

「子どもの日」ということもあり、たくさんの人で賑わっていました。魚釣り、わなげ、だるまん作り、くじ引き、メリーゴーランド、観覧車…。

1日中走り回って、大満足な子どもたちでした。

2013.5.17

5月5日 夕食づくりにチャレンジです



5月5日、GW 真っ最中で帰省する子が多い中、普段はなかなか取り組めない夕食作りにチャレンジしました。特別指導職員と子どもが自分たちでメニューを考え、買い物に行き、夕食づくりは1対1の共同作業。職員は子どもにリードされ、時間はかかったけれど、美味しそうなオムそばとみそ汁が出来上がりました！！

2013.5.10

4月28日 **里親制度推進のPRで里親支援専門相談員がラジオ出演**



4月28日、一陽の職員である里親支援専門相談員の山本さんが、地元の「たんなんFM」のラジオ番組に出演しました。

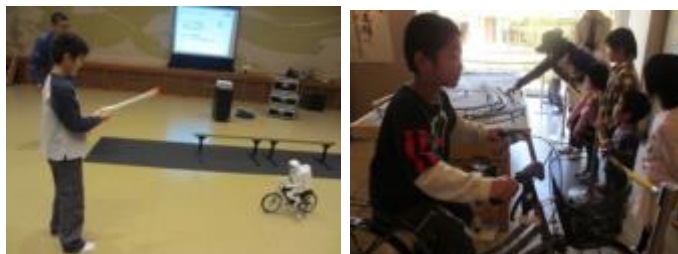
山本さんは、現在の里親制度の周知、国や県としての今後の推進方針、児童養護施設と里親さんとのパートナーシップや連携の方向などについて分かりやすく紹介し、里親を推進する里親支援専門相談員の役割を果たしていました。

里親支援専門相談員の仕事としては、越前市子ども子育て総合相談室で里親制度の推進や普及、相談受付などを続け、「一陽」でも月に一回の里親サロンなど里親さんとの連携相談活動などを行っています。

2013.4.30

4月28日 **子どもたちが「アースデーえちぜん 2013」に参加しました**

4月28日、一陽の子どもたちが「アースデイえちぜん 2013」に参加しました。会場にはエコにちなんださまざまな催し物があり、子どもたちはロボットショーを見て驚いたり、紙芝居で物を大切にすることを学んだり、自転車をこいで自家発電を試してみたりと興味津津で会場内を回っていました。



2013.4.30

4月27日 「一陽」も、ふくい雇用セミナーに参加しました



4月27日、「サンドーム福井」で開かれた、ふくい雇用セミナーに「一陽」も参加し、二人の職員が若い求職者の皆さんに対応しました。一陽のブースには11人が訪れ、「一陽」の仕事内容などの話を真剣に質問され、それぞれの専門性が異なり、幅広い分野で児童養護施設に興味を持っていることが分かりました。「人材は人材」ということばを念頭に、新しい仲間を見つけていく一歩でした。

2013.4.28

特定非営利活動法人「**エキスパートチャリティアソシエーション**」より今年も多額のご寄付

軽自動車とパソコン、プリンターなど有難うございました



このほど、特定非営利法人エキスパートチャリティアソシエーション様から多額の寄付金をいただき、軽自動車バモスとモバイル型パソコン、プリンターなどを購入しました。軽自動車バモスは子どもたちの送迎、通院、お出かけ、荷物の運搬など幅広く活用できるので職員や児童たちも喜んでいきます。



パソコンとプリンターは里親支援専門相談員が活用し、社会的養護関係公共機関との協働による支援やカンファレンス、里親宅訪問など様々な場所で役立つと期待されています。

新しいモバイルパソコンとプリンターを手にした里親支援専門相談員は、これでさらに里親や、関係機関との連携を強化し、里親等に対するアウトリーチ型支援を進めることができると張り切っています。

「エキスパートチャリティアソシエーション」様からの多額のご寄附は三年連続で職員一同、とても有難いと感謝しています。本当に有難うございます。

2013.4.26

4月 春の遠足で小学生の特別お弁当、好評でした



4月23日と25日、小学生の児童は遠足でした。

遠足の楽しみはお弁当、ということで、今回はウイナーを鯉のぼりやうさぎ、ネズミに飾り切りしてみました。

子どもたちは「かわいい!!!」と声をあげ、大人気の評判でした。

2013.4.25

4月23日 **橋本統括所長が福井県立大学で特別講義を実施**



4月23日、一陽の橋本統括所長が福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科にて、特別講義を行いました。

児童養護施設の社会的役割や児童家庭支援センターを中核として実践されているソーシャルワークの機能と展望についての講義でした。

同学科に属する3年生、計30名の学生たちは、社会的養護の実践に関する話はとても新鮮なようで、みな熱心に受講していました。

2013.4.23

4月1日 **児童家庭支援センター「一陽」を設置しました**

4月1日、社会福祉法人越前自立支援協会は、福井県の設置許可を受けて新たに「児童家庭支援センター一陽」を設置しました。児童家庭支援センターは社会福祉法第44条の2に定められた社会福祉施設で全国の児童養護施設を中心とする児童福祉施設に設置されています。

センターは、児童虐待や不登校、近年では発達障がい児等に対するケアなど、専門的援助が必要な子ども家庭に対し、早期に支援を展開して児童相談所機能を補完することを目的とし、市町村機関の子ども家庭支援をバックアップする児童福祉の専門援助機関です。

複雑化する子どもの家庭問題について、ソーシャルワーカーや心理療法士などの高い専門性と地域の福祉資源とをくみあわせて有効に機能させる役割を担っています。

現在、福井県内では、あわら市、大野市、敦賀市に設置されており、今回設置の「児童家庭支援センター一陽」は、越前市、鯖江市、越前町、南越前町、池田町などの丹南地域で唯一のセンターとして、その役割を担っていくことになります。

3月28日 NHKの番組制作でディレクター来訪 「一陽」を視察し打合わせ



3月28日、東京からNHKのディレクター久保氏が「一陽」へ取材に来られました。現在、子どもの発達の問題とその支援や治療というテーマでいくつかの特集を組んだ番組を制作していらっしゃるそうで、社会的養護としての立場から一陽を取り上げて下さったようです。

今回のような取材を定期的かつ長期にわたって久保さん自身が「一陽」を取材しながら、現在の社会的養護の実態をまとめて下さる予定です。視察では施設長と臨床心理士が対応し、子どもたちにとって、よりよい社会につながる番組となるよう、現場の立場から今後も番組制作に協力していきたいと話しました。

2013.3.29

3月11日 県内施設職員合同研究会を開催しました



3月11日、児童養護施設「一陽」で、県内の児童養護施設職員を対象として「社会的養護下の子どもたちと児童養護施設における心理ケアの在り方」というテーマのもと合同勉強会を開催しました。

児童福祉の分野でご活躍されている仁愛大学の荒川正吉氏を講師として迎えてご教授いただきました。こうした勉強会を定期的実施することで、一人一人の職員が心理面も含めてますます子どもへの理解を深めていくことを期待しています。

2013.3.14

3月3日 ひなまつりメニューで楽しいなあー



3月3日はひなまつり、調理スタッフは特別メニューをつくりました。山盛りのちらし寿司、からあげ、フライドポテなどいっぱい、……。子どもたちは、何から食べようか、迷うのも楽しそうでした。これからも季節感のある献立で子どもたちの心も身体もすこやかに育ててほしいと思います。

2013.3.5

2月16日 スズケン労働組合さんが寄付慰問に来てくださいました



2月16日、スズケン労働組合の代表の方が一陽を訪れ、加湿空気清浄機やノートパソコン、子どもたちへのおもちゃなどたくさんのプレゼントをいただきました。まずは施設を見学し、その後は子どもたちと遊んでいただきました。

わずかな時間でしたが、子どもたちはとても楽しんだようでお別れのときは子どもたちの表情が寂しそうでした。また、遊びに来てくださいね。

2013.2.19

2月10日 **子どもたちと調理員さんと「チョコパイ」を作りました**



バレンタイン目前!!ということで子どもたちと昼食のデザートにチョコパイ作りをしました。季節に応じたお菓子作りを取り入れ、少しでも食に触れて経験を増やしてもらえたらと願っての取り組みでした。

2013.2.12

2月9日 **地元子ども会の「6年生を送る会」に参加しました**



2月9日、一陽の地元町内である行松町子ども会の6年生を送る会に参加しました。ボーリングで汗流したあとは、菜園プッフエピソードでお食事会をしました。子どもたちのゲームを見届ける瞳は真剣そのものです。



6年生にとっては最後の子ども会行事。最高の思い出になりました。5年生以下の子どもたちは、ちょっと寂しかったかもしれませんね。

2013.2.12

2月5日 舞鶴市「公明党議員団」の皆さんが視察来訪されました

2月5日、舞鶴市の「公明党議員団」の皆さん4名が「一陽」に視察来訪されました。皆さんは、事前に児童養護の問題点などを勉強されてきたうえで、施設の目的と概要、利用状況と退所後の自立支援、地域との連携、行政との関係、児童養護施設としての今後の方向性、職員が長く勤務できる条件づくり、児童と親と施設や職員のかかわり方など幅広く質問され、意見交換を行いました。

「一陽」側は、副理事長、常務、事務長、臨床心理士の四名が対応し、それらの現状説明と施設案内をさせていただきました。一陽には開設以来たくさんの視察来訪がありますが、議会関係者の皆さんの受け入れは初めてでした。

2013.2.5

2月4日 「子どもの情報」に関する職員全員研修会を開催



一陽は、元敦賀児童相談所所長であり、現在は当法人の理事を務められている池田迪子先生を講師に、「子どもに伝えるべき情報」および「支援者として守るべき情報」に関する職員全員学習会を開催しました。

入所している子ども達に対して、その生き立ちや現在の家族状況をどう伝えるべきか？」また「子どものプライバシー権をどう保障していくか？」という問題は、日常のケアワークにおいて非常に大切な論点です。

今回の学習成果を踏まえて、職員一同が、対応姿勢を共有していきたいと思います。

2013.2.4

1月29日 今年も新一年生にランドセルが届きました

1月24日、今年の新一年生2人に対して東京からランドセルが贈られてきました。



この方から頂くのは「一陽」が開設して以来、三年連続ですが、変わらぬご支援に職員一同いつも感謝しています。



贈られた子どもたちは、職員から渡されると、さっそくケースから取り出し、ひもをほどき、ランドセルを覗き込んだり、背中に背負ったりして喜んでいました。そこで、ちょっとおどけて後ろ向きの記念撮影??になってしまいました。

2013.1.29

1月8日 読売新聞全国版で「一陽」の取組み紹介される

児童養護施設の小規模化「小舎化」への取組みを評価



1月8日の読売新聞全国版で、養護施設の小規模化手探りという特集記事が報道されましたが、その中で児童養護施設「一陽」の小舎化にむけた取組みと、児童たちや職員の変化の様子が紹介されました。記事の中では、「家庭的な雰囲気がひろがり、子どもたちが職員と話し合う時間が増え、悩みも聞いてもらえる」など子どもたちの声も紹介されています。

昨年に読売新聞本社の視察と取材を受けてはいましたが、このような大きな記事の中で「一陽」が紹介され、当日の朝、職員たちは驚きました。また、こうして紹介されると、ますます頑張らなければね、との声も上がっていました。

2013.1.8

1月年明け お正月は「おせち料理」を楽しみました



今年の年明けは、雪も少なくすこしやすいお正月でした。「一陽」では、里

帰る子どもたちと、一陽で正月を過ごす子どもたちがいますが、里帰りしない子どもたちに対して、お正月は職員が豪華なおせち料理を手作りし、子どもたちとお正月を祝いました。

おせち料理は重箱に詰められ、食材についての説明や、おせちの意味なども書かれていました。ふだんは見られない「おせち料理」に子どもたちの目が輝いていました。

2013.1 正月

12月24日 東京からのクリスマスプレゼントに子どもたち歓声!!



12月24日、「一陽」の子どもたちに越前市出身で東京在住の方から沢山のプレゼントが届き、それぞれのホームで一人一人に渡されました。この方からは、毎年いろんな形でのご支援をいただいておりますが、今回のプレゼントは子どもたちの年齢に合わせての配慮がなされていて、受け取った子どもたちは、これはわたしのものですね、と本当に嬉しそうで、ホームごとのクリスマス会も盛り上がっていました。

2012.12.28

12月25日 福井村田労組さんからプレゼント



12月25日、福井村田労組の代表の方が「一陽」を訪れ、子どもたちにと美味しいプレゼントを持ってきていただきました。

福井村田労組さんからは、この数年、年末にプレゼントをいただいておりますが、先日の北電

労組、日信労組さんなど、地域の労働組合の皆さんの暖かいご支援は一陽の子どもたちにとっても、職員にとっても、ありがたく、力強いご支援と感謝しています。

2012.12.25

12月22日 **サンタの来訪 from 武生製麺**

12月22日、武生製麺の皆さんが子どもたちにクリスマスプレゼントを持ってきて下さいました。子どもたちはサンタさんの来訪に驚きつつも大喜びです。一人一人、手渡しでプレゼントをもらい、サンタさんと楽しいひとときを過ごしました。



2012.12.24

12月20日 **今年も日信化学労組さんが年末慰問**



12月20日、日信化学労組の代表の方が「一陽」を訪れ、多額の寄付金とジュースをたくさんいただきました。日信化学労組は、十数年前に児童養護施設の卒園児が就職させていただいたことを御縁として、以来、毎年、組合員の方も管理職の方も一丸となって、組織的な募金活動を行い、届けてくださっています。本当にありがとうございます。

2012.12.21

12月16日 **地元町内の「子ども会クリスマス会」に参加しました**



12月16日、一陽の地元町内である行松町の子ども会行事クリスマス会に参加しました。まず、鯖江青年の家に行きリース作りを行いました。木片や葉っぱ、ドングリなど様々な材料の中から悩みながら、みんな納得のいくリースを作りました。その後、行松会館に戻りクリスマスプレゼントをいただきました。レクレーションやプレゼントなど子どもたちが楽しめる内容ばかりでとても思い出に残るクリスマス会になりました。

2012.12.18

12月14日 **日本児童育成園の皆さんが視察来訪**



12月14日、岐阜県の日本児童育成園の皆さん7名が児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。

まずは施設見学をしていただき、その後は将来的な改築構想も含めた小舎制の処遇や課題、職員の働き方などこれからの小舎制児童養護施設の在り方について活発な意見交換が行われました。

2012.12.18

12月11日 仁愛大学生が視察見学に来ました



12月11日、仁愛大学生12名が授業の一環で一陽の見学に来ました。
施設を見学したあとは副理事長による講義で社会的養護について学びました。

みなさん、熱心にノートを取ったり、たくさんの質問をしていただきました。
こういった機会に若い人たちが社会的養護に関心を持っていただけたら幸いです。

2012.12.11

12月2日 今年も北電労組さんからのクリスマスイルミネーション輝く



12月2日、北陸電力労組福井県支部・丹南部会の皆さん七名が「一陽」を訪れ、玄関横の広場にクリスマスイルミネーションを設置していただきました。にぎやかな輝きの中にサンタさん三人が飾られた高さ四メートル近い立派なものです。子どもたちは暗くなるのを待ち望み、当日の五時過ぎに職員と児童そろって見守る中で点灯されました。北電労組さんには昨年も飾り付けていただき「一陽」の師走の風景にはなくてはならないものになりました。

2012.12.4

12月2日 NPO 法人コミュニケーションパートナーズ 291 のおもちつきに参加

12月2日、敦賀市のNPO 法人コミュニケーションパートナーズ 291 のみなさまが主催するおもちつき会に参加しました。当日はおもちつきだけでなく、採れたての地元産東浦みかんを絞って100%ジュースを作ったり、竹でコップやお皿やお箸を作ったりと色々な体験ができました。子どもたちの真剣な目つきが印象的です。



2012.12.4

11月18日 市民活動交流の場・土といのちの会「収穫祭」に今年も出店



11月18日、食欲の秋！NPO法人土といのちの会さんが主催する収穫祭が、今年も蔵の辻で開催されました。一陽のスタッフも、自慢のミニラーメンとコーヒーを販売するお店を出店し、お祭りの盛り上げに一役買いました。

会場には、雨天にも関わらず数百名の市民が訪れ、取れたての旬の食材に舌鼓を打っていました。

2012.11.20

11月6日 常滑市のファミリーホーム「わたしん家」を視察



11月6日、一陽の職員をはじめ、福井県子ども家庭課、児童相談所、越前市家庭児童相談室等のメンバー14名による愛知県常滑市のファミリーホーム「わたしん家」の視察が行われました。当日はあいにくの雨、岐阜を通過する頃にはどしゃ降り、車内では誰が雨女なのか?で激論??、でも、そこは日ごろの行いが良い一同?、到着する頃には雨も上がり、常滑の町では明るい陽射しに迎えられました。

里親の徳田さんは日本ファミリーホーム協議会副会長、明日の社会的養護を考える里親の会 虹の架け橋副会長を務められており、優しい外見に似合わず、パワフルで気さくで活動的な方です。行政の職員も一緒に視察という事に、「連携大切ですね、みんな子供の幸せを願っているはずなのに、見えない壁がありますね。みんな相手が見えなくて不安なんです。誰かが動いて距離を縮めていくしかないよね。私もがんばります。児童養護のターニングポイントが近いですね。」と話され、多職種・多機関の企画に好意的でした。事実、ご自身も多職種・多機関のネットワークを張り巡らせ、意欲的に勉強されており、私たちには学ぶべき事が沢山ありすぎて、予定時間を大幅にオーバーしての視察でした。

2012.11.16

11月3日 第91回全国高校サッカー選手権福井県大会

丸岡高校で、「一陽」の児童も活躍

11月3日、第91回全国高校サッカー選手権福井県大会決勝戦が坂井市のテクノポート福井スタジアムで行われました。一陽のMくんも丸岡高校サッカー部の一員として北陸高校と対戦しました。一陽の職員や子供達もMくんの雄姿を一目見ようと、応援に駆けつけました。結果は接戦のすえ見事優勝し、全国大会への切符を手に入れました！Mくんは優勝旗を受け取り、次は全国大会の優勝旗を手にとると意気込みを見せています！！



2012.11.13

**行楽の秋、一陽の子ども達は、
地域の皆さんの温かなご配慮で、たくさんお出かけしています。**



10月14日、ふくぶせんフェスタ with のっぽまつりに参加してきました。10月16日には、越前市の恒例イベントたけふ菊人形に行ってきました。また10月21日には、地元南地区の地域文化祭ニコさんまつりに参加しました。さらに10月22日には、地元の方のご配慮で芋掘りを行いました。今年も一陽の子ども達は、地域の皆さんのやさしい笑顔に包まれて「行楽の秋、食欲の秋」を満喫しています。

2012. 10. 23

10月12日 若狭町婦人福祉協議会の皆さん

10月17日 品川景德学園職員の皆さんが視察来訪

若狭町婦人福祉協議会、品川景德学園の皆さんが児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。施設見学の後、児童養護施設一陽の現状と役割について説明しました。視察の中では、子どもたちに対する自立支援のあり方や、社会的養護施設としての地域支援のあり方などについて活発に意見交換が行われました。また、若狭町婦人福祉協議会の皆さんからは後日に温かいご芳志も送られてきました、ありがとうございました。

2012.10.22

10月8日 子どもたち、地元町内の秋祭りでお神輿かつぐ



10月8日、一陽の地元町内である行松町のお祭りがあり、子ども神輿がにぎやかに町内を練り歩きました。一陽の子どもたち20名も子供会の一員としてお揃いの法被を来て参加しました。また、一陽の前の広場はお神輿の休憩場となり、職員も総出で皆さんに飲み物やお菓子などを配り接待役を務めました。幼児さんたちも初めてのお神輿に興味津々です。晴れやかな秋空のもと、子どもたちはのびのびとお祭りを楽しみました。

2012.10.9

9月27日 愛知県児童福祉施設長会の皆さんが視察来訪

9月27日、愛知県児童福祉施設長会の皆さん(21名)が児童養護施設「一陽」を視察来訪されました。施設見学の後、現在「一陽」が実践している地域との協働や学校連携の取り組みなどについて説明しました。

とくに、越前市の行う乳幼児健診への支援や生活保護家庭児童への支援、地元小学校への心理士の派遣などについて活発に質疑が行われました。また地元のNPO活動家や行政経験者が役員となり民主的な運営が行われている点や職員採用試験を職員自らが実施している点などについても熱心に意見交換が行われました。

9月23日 **南地区総合防災訓練に参加しました。**



9月23日午前7時から9時まで、越前市武生第二中学校体育館において「南地区総合防災訓練」が開かれました。

早朝、雨天にも関わらず400名の南地区住民が訓練に結集しました。一陽の子どもたちも職員と一緒に地元の「行松町」の一員として元気に参加しました。

2012.9.25

9月4日 **来年度の新規採用職員面接選考が終わりました。**



9月4日、午後2時から「一陽」において、来年春から働いていただく新規採用職員の面接選考が幾つかのグループに分かれて行われました。来年度の採用予定者は「心理士・保育士」「調理・栄養士」の職種ですが、面接選考は例年通り、その職種の直接処遇者、担当者があたりました。選考結果は1週間以内に受験者に直接に通知されます。採用人員は全体で4-5名を予定しています。

2012.9.4

8月18日、26日 養育里親研修会(認定前研修)実習を行いました。

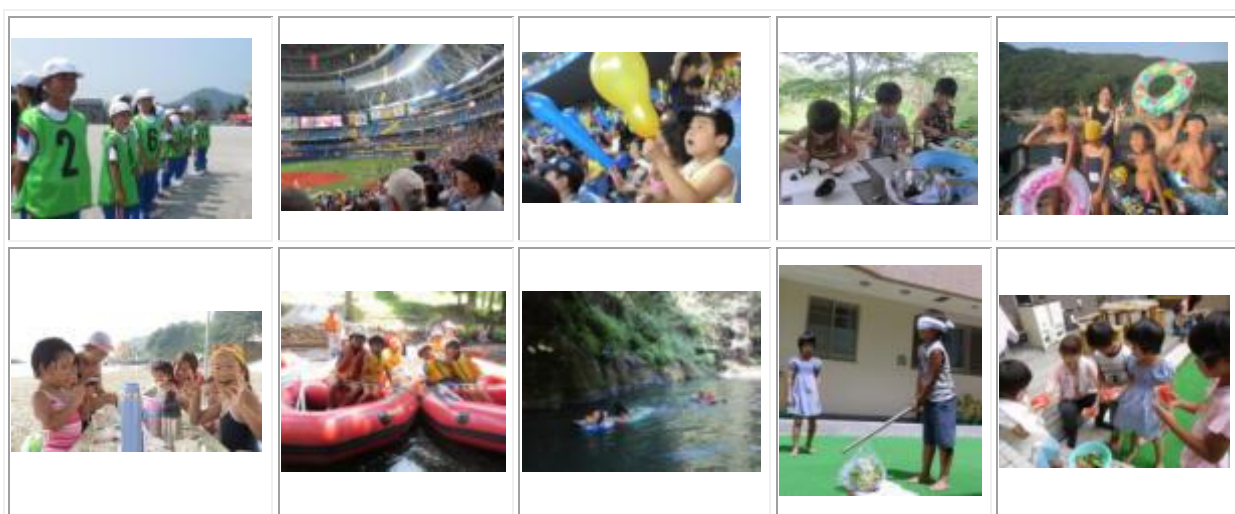
8月18日、26日の両日、児童養護施設「一陽」は、福井県総合福祉相談所からの依頼を受け、養育里親希望者の方に対して養育里親研修会(認定前研修)を実施しました。研修はプログラムに従い、社会的養護システムの現状や入所児童の動向に関する概要説明、食育や養育スキル(CSP)などについてレクチャーを行った上で、メインホームにて現場実習を行いました。

里親制度は、今後、社会的養護システムの中核となるべき大切な制度です。一陽では、これからも里親制度の進展のために積極的な取り組みを行い貢献していくことにしています。

2012.8.27

7月ー8月 夏休みは楽しいお出かけがいっぱい

子どもたちの夏休み、各ホームごとに楽しいお出かけが待っています。今年も大阪のオリックス球団からのご招待をはじめ、キックベースボール大会、キャンプ、海水浴、池田の川遊びなど、普段は体験できないことに挑戦しながら楽しい思い出をいっぱい作りました。また「一陽」ではスイカ割り大会など夏ならではの催しも開かれました。



2012.8.17

7月25日 障害者の当事者団体『コムサポートプロジェクト』の皆さんが視察来訪



障害児・者の権利擁護や自立生活支援事業、障害者へのホームヘルプサービス事業などを展開している障害者の当事者団体「NPO法人コムサポートプロジェクト(吉田知栄美代表)」の皆さんが、「一陽」に視察来訪されました。

職員から社会的養護の現状と「一陽」の概要説明を行い、施設内見学をしていただきました。社会的養護と障害福祉領域の共通の課題である福祉の地域化(地域移行)や施設退所後の自立支援などについて熱心な意見交換が行われました。

2012.7.27

7月13日 「子ども子育て新システム」を学ぶ市民セミナーを開催



7月13日、社会福祉法人越前自立支援協会は、NPOえちぜん、NPO丹南市民自治研究センター、NPO自立支援ネット、連合福井丹南地協などと協働して「子ども子育て新システム」および「社会的養護の課題と将来像」に関する市民学習会を開催しました。

講師には、中島圭子氏（連合総合男女平等局長・前内閣府子ども子育て新システムワーキングチーム委員）、パネラーには、榊原智子氏（読売新聞記者・厚労省社保審児童部会専門委員）、堀井二実氏（大阪人権保育連絡協議会代表・園田学園女子大学教員）をお招きし、新システムにおいて市民自治を具現化する「子ども子育て会議」の重要性や、社会的養護における地域化、家庭的養護の方向性などについて意見交換が行われました。

会場に集まった地域の保育士、福祉施設や行政関係者、児童養護施設職員など133名の参加者は、新たな動きと具体化する「子ども子育て新システム」に対する講師やパネラーたちの発言に熱心に耳を傾けていました。

2012.7.17

7月6日 「社会福祉法人越前自立支援協会」

**福井県より「税額控除対象福祉法人」の証明うける
3000円以上の個人寄付の減税効果が大きくなります**

7月6日、社会福祉法人「越前自立支援協会」は、個人からの寄付金が税額控除対象となる「税額控除対象社会福祉法人」として、福井県より証明されました。この証明は、3000円以上の個人寄付を、年間100人以上いただき地域に支えられている法人が対象とされ、公益性の高い社会福祉法人として法律的に認められた（認定法人）証明といえます。ご支援いただいている皆様に改めて感謝申し上げます。

この証明によって、社会福祉法人越前自立支援協会に 3000 円以上の寄付をいただく市民の方が確定申告をされる場合、これまでは所得控除方式のため、実質的な税額での減税効果はごく限られていましたが、今後は「寄付金から 2000 円を差し引いた額の 40%の金額」がそのまま所得税から税額控除されることになり、小口の寄付者にも減税の効果が大きく表れます。

「一陽」では、これまでに寄付をいただいている皆様や、今後寄付をいただく皆様に対し、改めて「税額控除対象福祉法人」に証明された旨をお知らせし、引き続いてのご支援をお願いしています。（ご不明の点あれば 0778-43-5514 へお問い合わせください）

2012.7.10

6 月 29 日 「杉並里親障害致死事件」を考える学習会を開催



6 月 29 日、児童養護施設「一陽」は、東京の杉並区で里親による里子への傷害致死事件が発生した件についての学習会を開催し、一陽職員をはじめ、県児童相談所、県内児童養護施設の職員、県里親会の役員、地元大学の学生さんなど 30 名が参加しました。



講師の前田信一さん(子ども宝仙教育大学教員 杉並事件を考える会代表)は、2010 年 7 月に東京都杉並区の里親が里子を死亡させたとして 2011 年 8 月に逮捕され、現在、裁判中の事件の概要を紹介しながら「事件の事実関係はまだ明らかになってはいないが、里親家庭で三歳の女子が死亡たことは事実、二度とこのような事件を起こさないために里親と委託される子どもの抱える問題を考えたい」と考える会を発足させて活動を始めたと最初に語り、主に次のような内容のお話でした。

「子どもを真ん中にする」 仕組みをみんなでつくろう 講師の前田さんが呼びかけ

このような事件は、あってはならないことであるが、社会的養護を担っている現場の劣悪な労働条件や十分な研修や専門的な知識のないまま日々の業務に追われており、援助の在り方や日々子どもたちが吐き出す問題行動に対応できずストレスがたまり、養育者がバランスを崩し体罰などの不適切な行動になりうる可能性は常にある。

2000 年以降、「子どもの権利ノート」を渡す取り組みが行われているが、児童相談所の業務も児童養護施設もパンク状態となっており、「子どもたちの心と命を守る」ための十分な体制と人材育成が急務である。

国は里親の拡大方針を示しているが、里親に対する支援事業はまだ不十分であり、里親の研修を支える体制も弱い。里親や里子を地域で孤立させない具体的な支援が求められる。そのための対策と関係者による具体的な里親支援事業をみんなで考えて早急な実施を目指そう。

今回の「杉並事件」で東京都が動いたのは、事件経過の一年後、里親が逮捕されてからだったが、その前に事件の事実関係や背景を検証すべきであった。命を失った事実を再び起こさないために、その検証と教訓を引き出していかねばならない。

裁判は、現在、集中的に審理が行われているが、虐待の真実はまだ明らかになっていない。耳の裂傷、髪が抜けていた、性器の出血、体全体のアザなどの状況証拠中心だが容疑者は障害致死を否認している。第三者による可能性が全くないのかとの弁護側の見解もある。

東京都は事件後、「里親制度マニュアル」の徹底や、民間との防止対策連携など積極的な対応を早い形で進めている。

この事件を一つの契機として、私たちは「子どもを真ん中にする仕組み」を作らなければいけない。責任の追及や悪者さがして終わってはダメであり、行政はもとより、児童相談所、里親、児童養護施設など関係者すべてが共に学び考え行動しよう。

2012.7.3

6月22日 坂井市春江町西部地区民生委員の皆さんが視察来訪

6月22日、坂井市春江町西部地区民生委員の皆さんが児童養護施設「一陽」に視察来訪されました。児童養護施設の社会的な役割と現状、一陽の概要についての説明、そして施設内見学を行いました。視察の中では、子どもたちの生活実態や職員のかかわり方、養育のあり方などについての意見交換などが行われ、小舎制で家庭的な雰囲気についての新たな認識もされたようでした。

2012.6.22

6月3日 南地区体育会に参加しました



6月3日、越前市南小学校グラウンドにおいて「南地区体育会」が開かれました。一陽の子どもたちも職員と一緒に地元の「行松町」の一員として元気に参加しました。

温かく和やかな地域の人たちの輪の中で、みんな伸び伸びと楽しく交流できた一日でした。

2012.6.5

5月30日 コモンセンスペアレンティング研修会を開催しました



5月30日、福井県里親会や地域の団体と協働して、コモンセンスペアレンティングに関する研修会を開催しました。午前中は、JR武生駅前の「仁愛大学サテライトキャンパス」で基礎講座を、午後は児童養護施設「一陽」で専門講座を行い、いずれも40名を超える参加者でした。

講師の堀先生(情緒障害短期治療施設あゆみの丘副園長)からは、予防的教育の重要性や、具体的、描写的な表現で指導することの有効性などについて、実践者ならではの貴重なお話を聞くことができました。

2012.6.1

5月25日 「アイリオ生命保険株式会社」の皆さんが視察来訪

5月25日、児童養護施設「一陽」にアイリオ生命保険株式会社の福井県内の代理店の皆さんや金沢事務所の方など11名が視察来訪されました。アイリオ生命保険株式会社は全国の児童養護施設をはじめ、各種の福祉団体や福祉活動に対し、多額の寄付や活動支援など社会貢献活動を一貫して継続されていますが「一陽」に対しても昨年から今年にかけ、子どもたちの送迎や野外活動に使用する自動車、パソコンの情報システム、施設整備、各ホームの冷蔵庫など数多くのご支援をいただいています。



そんな中で、支援いただく方に「目に見える支援」の一端として視察をいただきました。視察では児童養護施設の役割と概要の研修、施設内の視察、ご支援いただいた具体的な形の見学などをされ、今後も引き続いて支援、協力をしたいと暖かい言葉をいただきました。

2012.5.25

4月28日 「一陽」の子どもたち、「福井ミラクルエレファント」の試合でエスコートキッズ



4月28日、「一陽」の子どもたち6名がプロ野球BCリーグの地元球団「福井ミラクルエレファント」対「信濃グランセローズ」の試合に招かれ試合開始前のセレモニーで、エレファントの選手たちと手を握り、風船も持ちながらグラウンド内を行進しました。



当日は見事な青空のなか、会場の三国運動公園野球場グラウンドで、大勢の観客の前を堂々と歩き、温かい声援に少し恥ずかしそうな笑顔を浮かべながらも、前を向いて、楽しい様子で元気にエスコートキッズとしての大役を果たしました。

試合は、両チームの投手戦となり、1対1の引き分けで福井ミラクルエレファントの勝利はなく、応援の子どもたちはやや残念そうでした。

2012.5.2

4月13日 「一陽」の桜も咲き始めました



「一陽」が開設されてから一年が過ぎ、二回目の春を迎えましたが、一陽を囲んでいる多くの桜もこの数日の陽気で次第に膨らみ咲き始めました。淡い桜色と一陽の柔らかいベージュ色がよく調和して見事な春の景色になっています。

子どもたちも、通学や散歩など、日常生活の中でしっかりと馴染んでいます。写真は一陽の東側と北側に咲く桜です。

2012.4.13

2月24日 長野市の「恵愛学園」の皆さんが視察来訪

2月24日、「一陽」へ長野市の児童養護施設「恵愛学園」の皆さん5名が視察来訪されました。施設内の視察の後、将来的な改築構想も含めて小舎制の処遇や課題、施設建設、職員の働き方、地域との連携など、具体的な施設運営全般にわたって、多くの質問や意見交換が行われました。

2012.2.24

2月21日 今年もランドセルのプレゼント 子供たちは早くも一年生気分です



もうすぐ春、四月から一年生になる子どもたちに今年も東京からランドセルが贈られてきました。越前市出身の方で昨年も全員分のランドセルをいただきました。



職員が箱を開けると待ちきれないようにランドセルを覗き込み、さっそく背負ってしまいました。気分は早くも一年生、ニコニコと嬉しさ満開の笑顔でした。

2012.2.22 日

2月上旬 大雪も子どもたちには楽しい時間



今年も北陸は大雪で、「一陽」がある越前市でも最高積雪は 70 センチを超えました。

そこで早速子どもたちは雪遊びがしたいと申し、職員と一緒に滑り台をつくり雪遊びの場所をあつという間に作りま した。

大人にとっては厳しい冬も子どもたちには楽しい季節です

2012.2 月

1 月 27 日 大野市の「偕生児童苑」の皆さんが視察来訪

1 月 27 日、大野市の児童養護施設「偕生児童苑」の皆さん 11 名が視察来訪されました。視察の目的は今後の改築計画も考慮しながらということで、「一陽」の新築に至る経過や、小舎制としてのスタートと運営、職員の勤務体制、会計運営、食事の対応など、実質的な施設運営についての意見交換が行われました。また施設内についても熱心に察が行われました。

2012.1.27

クリスマス「一陽」にサンタさん現れる プレゼントもあちこちから届く



12月23日、一陽にサンタクロースがプレゼントをいっぱい担いで来てくれました。突然の訪問に子どもたちはビックリしながらも歓声をあげて大興奮、笑顔いっぱいであんなに抱きつき離れない子どももいました。その笑顔にサンタクロースさんも喜びの笑顔でした。

また、当日のサンタさんの他にも、クリスマスを前に県内外から、個人、企業、労組の方など色々な方々からプレゼントが届きました。内容もお菓子、おもちゃ、現金などお手紙とともに心のこもったものばかりで、子どもたちも職員一同も感謝の気持ちいっぱいです。みなさん有難うございます。

2011.12.26

11月30日 社会福祉法人「名広愛児園」の皆さんが視察来訪

11月30日、名古屋市の「名広愛児園」の4名の皆さんが「一陽」に視察来訪されました。今後の小舎制への移行も考慮しての視察ということで、一陽の職員との間で、施設内の見学と合わせ、ユニット制の現状、児童の処遇、運営の意思決定、地域との関係、ボランティア受け入れなど、多くの意見交換がなされました。

2011.12.2

11月25日 自治労福井県本部が「一陽」で自治研講座ひらく



11月25日、「一陽」で自治労福井県本部の自治研講座が開かれ、約30名が一陽の視察と合わせて三時間あまりの研修をしました。

この中では、以前の公立施設から民営の社会福祉法人運営に至

る経過と、市民立と呼ばれるような市民支援の法人設立、その中での職員の働き方、新施設の建設取組み、児童に対する処遇の改善、現在の経営状況などについて「一陽」の四名が説明し、参加者からは日常的な仕事への意欲や働き方、民主的な運営と経営方法、県下初の小舎制移行など、幅広い質問があり、職員自らが施設を改革する実践を自治体職場にも生かしたいとの声が寄せられました。

2011.11.29

11月15日 敦賀市第一地区民生児童委員会の皆さんが視察来訪

11月15日、敦賀市第一地区民生児童委員の皆さん16名が「一陽」を訪れ、概要説明の後、施設見学を行いました。質疑ではホームごとの人員編成、食事と生活、ショートステイやトワイライト事業、全国の虐待の傾向、地域での具体的事例と対処の仕方などについての話がされました。

2011.11.15

11月8日 越前市南地区男女共同参画委員会の皆さんが視察来訪

11月8日、越前市南地区男女共同参画委員会の皆さん17名が「一陽」に視察来訪されました。一陽の地元の皆さんとあって施設への理解も深く、概要説明や施設見学を通じて、細やかな質疑や支援の仕方などについても意見交換がなされました。

2011.11.8

11月5日 北陸電力労組の皆さんが、クリスマスイルミネーションを設置プレゼント



11月5日、北陸電力労組福井県支部・丹南部会の皆さんが来訪され、子どもたち

へのクリスマスプレゼントとして、「一陽」の表玄関近くに、にぎやかに輝く大きな「クリスマスイルミネーション」を飾っていただきました。

その夜から早速の点灯を行い、子どもたちは歓声をあげて喜びました。以来、子どもたちは夜が来るのを楽しみに待っているような感じです。ありがとうございました。

2011.11.6

11月4日 越前市民生児童委員協議会・地域福祉部会の皆さんが視察来訪

11月4日、午前と午後の二回に分けて、越前市民生児童委員協議会連合会の地域福祉部会の皆さん30名が「一陽」の視察に来訪されました。地元の越前市の皆さんとあって以前の「進修学園」の時から知り合いの方も多く、過去にボランティアに参加された方もおられました。

概要説明では、その変遷の中での経過と変化や、学校生活、小舎制の特徴、高校卒業後の見守りや就職の仕方など幅広い質問がありました。また、支援やお手伝いできることは何かとの言葉もいただきました。

施設内の見学後の感想では、これまでの施設に対するイメージが一変した、職員さんも頑張っているなどの声が聞かれました。

2011.11.4

10月8日 地元子ども会のお祭り、「一陽」の子も神輿かついで楽しむ



10月8日、一陽の地元町内である行松町のお祭りがあり、恒例のこども神輿がにぎやかに町内を練り歩きました。一陽の子どもたちも対象年齢の16名が子供会の一員としてお揃いの法被を着て嬉しそうな笑顔を振りまきながら参加しました。

また、一陽の前の広場はお神輿の休憩場にもなり、勤務中の職員も総出で皆さんに飲み物やお菓子などの接待役をしました。写真は神社前での記念写真です。

一陽の子どもたちにとっては、4月のスタート以来、初めてのお祭り神輿でしたが、日ごろから集団登校や地区運動会など地元行事も一緒に参加しており、顔なじみの仲間ばかりで、のびのびと楽しそうでした。

2011.10.14

10月4日 **坂井市三国町民生児童委員協議会の皆さんが視察来訪**

10月4日、さわやかな秋晴れの中、坂井市三国町民生児童委員協議会の皆さん13名が「一陽」に視察来訪されました。職員の概要説明の後、施設内見学を行い、児童の入所にいたる経過、部屋割り、お小遣いやアルバイト、学校でのまよう、小舎制の特徴など多くの質問があり、児童養護施設への認識を新たにしたいとの感想をいただきました。また入所児童全員に対するお土産もいただき早速児童たちに渡されました。

2011.10.4

9月27日 **坂井市春江町民生児童委員協議会の皆さんが視察来訪**

9月27日、坂井市春江町民生児童委員協議会の皆さん10名が「一陽」に視察来訪されました。職員から児童養護施設の現状と「一陽」の概要説明を行い、施設内見学をしていただきました。その中では、入所後の児童の様子や行動の変化、地域との付き合い、就学と進路、お小遣いやアルバイト、保護者の面接など多くの質問が出され、熱心な視察が行われました。

2011.9.27

9月15日 **市民の皆さんと一緒に「自立支援研修会」を開く** 福井少年鑑別所の立川さんから青少年の心理など学ぶ



9月15日、児童養護施設「一陽」において、少年非行、家庭内暴力など問題行動をおこす青少年の心理や背景について学ぶ自立支援研修会がひらかれ、一般市民の方やNPO関係者、行政職員、児童養護施設職員など約30名が参加しました。

研修会は講師に福井少年鑑別所の法務技官・法務教官の立川晃司氏を招き、約二時間の講演と意見交換が行われ、参加者からは新しい視点での青少年の心理や非行につながる背景などに気づかされた良い研修会だったとの声が多く聞かれました。

立川氏からは、青少年の心理状態、家庭や保護者の形などを通じて多くの問題提起や視点のあり方などが語られましたが、その内では次のようなことも話されました。(話された内のごく一部を要約しましたが誤りある場合はページ作成者の理解不足ですので、ご指摘ください)

少年の非行や家庭内暴力の発生では「不運」を感じさせられる子も多い、家族全員のマイナス部分をその子がすべて背負ってしまうケースがある。

非行には必ず第一次要因と第二次要因がある、例えば万引きという行為では、その物が欲しいというだけでなく、その事によって自分を見つめてほしい、自分に向いてほしい、認められたい、親を困らせたいなどの心理的背景もみられる。暴走や危ないことでは、自分の劣等感を払いたい、自信をつけたいとの思いもみられる。

最近は何でも白黒つける傾向があるが、社会生活の全てがそう簡単には行かないことを体験する場所が家庭でもある。誰しも適度な悪と善を持っている、叱りながらも奥のほうでは理由を探ることが大事。子どもの秘密にも深く入りすぎたり干渉してはならない部分がある。

児童養護施設の入所少年には非行に走る者が少ない、施設の中に本来の家庭的なものが残っているのではないか、他人ではあっても親身になって世話してくれる、自分を裏切らず迎えてくれるという認識を冷静に理解し感謝する心を育てているものと考えられる。

全て自由な場合の時ほど不自由さを感じることも多い、適度な一定の枠組みというのが子どもには必要である。基本的な習慣を身につける中で心身ともに健康になり落ち着いていく。

心身症としてストレス心の問題と思う場合でも体の健康に効く薬や治療も大事にしてほしい、体を良くすれば心の面のストレスも治る場合がかなりある。

発達障害と非行は直接には結びつかない、非行の場合には家庭的なものや周りの状況が加えられた二次的要因によって起きている。

福井少年鑑別所では、一般外来の相談室も設置しています。青少年の性格特性、問題行動等への対応など、気軽に相談くださいとのことでした。

電話は、0776-25-5036 です。FAX 0776-23-9115 です。

2011.9.16

9月6日 職員採用面接試験を行いました



9月6日午後、社会福祉法人越前自立支援協会としての来年度の職員採用試験が「一陽」で行われました。採用予定人員2名に対し、面接試験には男女4名ずつ合わせて8名が受験しました。今回の採用予定は来年四月から児童の直接処遇を行う職員の採用であり、面接は、その部門の統括指導員が中心となり、他の指導員も同席の中で受験者に対する質問などが行われました。採用の可否は後日に受験者に直接に通知されます。

2011.9.6

9月2日 越前市第7地区民生児童員協議会の皆さんが視察来訪

9月2日、越前市第7地区民生児童委員協議会の皆さん14名が「一陽」へ視察来訪されました。施設としての役割と概要についての研修と、視察内見学をされましたが、その中では入所児童たちの生活時間、就学の形態、入所後の保護者との関係、携帯やゲーム機の取り扱い、お小遣いの使い方など、数多くの質問と熱心な意見交換が行われました。また、図書カードのプレゼントもいただき、ありがたく頂戴しました。

2011.9.2

8月12日 残暑とは言えない猛暑です...が

今年の夏は、異常な暑さ、職員たちが悲鳴をあげても子ども達は暑さに負けず元気です。そして、一陽に彩りを添える花や野菜も元気です。



2011.8.12

8月8日 県立大学「看護福祉学部.社会福祉学科」の皆さんが「一陽」で授業



8月8日、午前10時から午後3時まで、福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科の16名の皆さんが「一陽」を訪れ、当施設の職員から、児童養護施設の基礎知識や全国の現状、今後の課題と方向性、社会的養護のあり方などを学び、「一陽」の施設見学などを行いました。

質疑応答では県立大学OBの当施設職員も加わり、自由な雰囲気の中で、職員のバーンアウト問題、施設内虐待の対応、職員のチームワーク等を含めた数多くの質問が全員からなされました。

終了の際には内容が充実したカリキュラムだったとの声も寄せられました。

2011.8.8

8月6日 夏休みの季節 楽しいホーム行事が続いています

子どもたちが夏休みの季節、「一陽」では、それぞれの家「各ホーム」ごとに様々なホーム行事が企画されていま

す。県内各地の海、キャンプ場、水族館、山の中の滝や川遊び、映画鑑賞など、ホームごとに子どもたちと話し合っ先行が決められ、お揃いで外出。自然の中で遊ぶ子供たちの表情に職員たちの気持ちも和んだり、緊張したり。また年長児童が思わぬ逞しさを感じさせる時もあります。



2011.8.6

8月2日 **鯖江市主任児童民生委員会の皆さんが視察来訪**

8月2日午前、鯖江市主任児童民生委員の皆さん13名が「一陽」へ視察来訪されました。概要説明と施設見学の中では一陽と地域の皆さんとの関係、学校での児童の様子、入所児童と保護者との関係など熱心に質問され、隣の自治体として今後も何かとお付き合いしようとの言葉をいただきました。

2011.8.2

7月29日 **日蓮宗 福井県中部社会教化事業協会の皆さんが視察来訪**

7月29日午後、日蓮宗 福井県中部社会教化事業協会の12名の皆さんが「一陽」へ視察来訪されました。職員による概要説明の後、子供たちと親の関係や、入所後の引き取りや、学校での状況、小舎制導入によるメリットやデメリットなど多くの質問がなされました。施設内の視察では、男子ホームと女子ホームの雰囲気の違いや、家庭の暮らしに近いホームの形など、特に関心を持たれたようでした。「一陽」へは、いろんな方々や団体の視察来訪がありますが、宗教関係の皆様への受け入れは初めてでした。

2011.7.29

7月20日 **とれたて!!キュウリは、おいしいなあ**



「一陽」では、前庭で幾つかの野菜をプランター栽培しています。水やりなどは子どもたちと職員で楽しみながらしていますが、このほどナスやキュウリが食べられるほどに成長し、さっそく収穫しました。そして、子供たちの目の前で職員がキュウリを切って塩もみして即席のおやつとしていただきました。まさに自分達が育てて見守ってきた地産地消??のキュウリ、あっというまに子供たちのお腹に納まってしまいました。

続いてはゴーヤも育ちつつあります、ゴーヤはキュウリのようにはいきませんが調理員さんがおいしいゴーヤチャンプルーを作ってくれることでしょう。子どもたちは楽しみにしています。

2011.7.22

7月19日 **仁愛大学.心理学科の皆さんが「一陽」で授業**



7月19日、越前市の仁愛大学心理学科の学生さんたち15名が「一陽」を訪れ、授業の一コマのような形で、児童養護施設の基礎知識研修や、仁愛大学出身の先輩.臨床心理士との質疑応答、施設内見学などを行いました。それぞれ、積極的な聴講や質疑などを含め、内容の濃い時間でした。「一陽」では、これまでも地元の大学である「仁愛大学」との連携を色々な形で続けていますが、新施設スタートに伴い、また新たな

つながりが広がったものとして今回のような取組みを歓迎しています。

また、同日夜には「一陽」の施設長が仁愛大学の就職支援関係の講座で児童養護施設の意義や職員の働き方などについて話しました。

2011.7.20

7月14日 **福祉ネットワーク えんがわ de ひなたぼっこ協議会(仮称) いよいよ発足**



7月14日 児童養護施設「一陽」の多目的ホールで、越前市内の福祉団体など11団体の代表が集まり、かねてより準備を進めていた新たな

福祉ネットワーク「えんがわdeひなたぼっこ協議会」の第一回会合が行われました。この中では、会の活動目的として「**地産地生!!のまちづくりと、公共サービスネットワークの形成**」をあげ、全ての市民が障がいの有無、育ちの背景、国籍等にかかわらず、私たちの**地域=越前市=で産まれ育ったすべての子どもたちが、自己肯定感を育みつつ地域の中でしっかりと自立し、将来にわたり安心して生きていける、そのような地域環境を整えていくことと確認**されました。

また、協議会として、①市内の多様な福祉事業者が結集し、対等かつ多方向型(インターネット型)の、ゆるやかなネットワークを構築。②障がい児者の家族や児童養護施設の退所児童、青年おも当事者として包摂=当事者概念の拡大。さらにその上で、高齢、障がい、児童など、既存福祉行政の縦割りスキームを超えて、包括的に福祉事業を展開。③行政との協働を前提に「市民自治」の精神と手法によって、自発的に地域福祉課題を解決していくことをミッション化。などとする事も確認されました。

今後の具体的な活動としては、各種福祉イベントへの出張型の地域えんがわ事業、常設型の地域えんがわ事業、連続市民セミナー、ミニ福祉セミナーなどの企画が話し合われました。

当日に参加した団体は下記の通りでした。

●NPO 法人自立支援ネット ●NPO 法人ピノキオ ●NPO 法人エンジェルキッズ ●NPO 法人ケアサポート、春駒 ●社会福祉法人、芦山会 ●社会福祉法人、陽光会 ●社会福祉法人、越前自立支援協会 ●社会福祉法人、越前社会福祉協議会 ●医療法人、野尻医院ままと ●オレンジサポーターズ ●NPO 法人、丹南市民自治研究センター、の 11 団体です。事務局は社会福祉法人、越前自立支援協会が担当となりました。

2011.7.15

7月12日 **福井県里親会と敦賀市主任児童委員会の皆さんが視察来訪**

7月12日、午前に福井県里親会の皆さん14名が「一陽」で会合を開き、その後、視察されました。里親会の皆さんは日ごろから児童養護に深い理解を持ち、具体的な実践をされている方々ですが、今後の厚労省の方針でもさらに里親やグループホームを増やす方針も示される中、児童養護施設との連携など益々大事だと、当施設スタッフと話し合いました。

同日の午後には、敦賀市主任児童委員会の皆さん14名が視察来訪されスタッフが施設概要説明と施設内を案内させていただきました。小舎制としてのホームの作り方や児童の暮らしぶりなど幾つかの質問もいただきました。「一陽」には県内各地からの児童が入所していますが、私たちスタッフとしては今後も県内の多くの方々に「一陽」を知っていただき、県内全体の児童福祉向上にも役立っていけたらと願っています。

7月1日 **園庭の芝生、いい遊び場に**



連日の猛暑日ですが、「一陽」の前庭では子どもたちの元気な声と笑顔が響いています。それは、五月に植栽した芝生が数回の芝刈りを経て、ちょうど良い緑の広場として完成したからです。

暑さを知らない子どもたちにとって、この芝生広場、この夏は色んな形で利用され喜ばれることでしょう。

201

1.7.1

6月24日 **敦賀市第六地区民生児童委員協議会
越前市主任民生児童委員の皆さんが視察来訪**

6月24日、午前に敦賀市第六地区の民生児童委員さん22名、午後に越前市の主任民生児童委員さん10名が「一陽」の視察に訪れました。対応する部屋は20名以上だと窮屈な感じになりますが、我慢していただいていた説明となりました。また、越前市の皆さんは市立公営から私立民営に至るこれまでの経過もご存じの方も多く、その変化にともなう児童の状況なども質問がありました。いずれの皆さんも県下で初めての「小舎制」について、変化する児童養護施設の現状を新たに認識されたようでした。

2011.6.25

6月14日 福井県家庭相談員連絡協議会の皆さんが視察来訪

6月14日、「一陽」へ福井県家庭相談員連絡協議会の皆さん18名が視察に訪れました。皆さんは日ごろから地域での児童福祉や、子育て相談、家庭訪問などの仕事をされている方々ゆえに、「一陽」で暮らす子供たちの具体的な様子など関心も深く、多くの質問も出されました。また県内では初めての「小舎制」に取りくんだ当法人の意欲的な姿勢などについても評価をいただきました。

2011.6.17

6月6日 シンガポール公務員組合が「一陽」を視察来訪



6月6日、「一陽」へ外国からのお客さん6名が視察に訪れました。訪れたのはシンガポールの公務員組合などの役員の方、男女3名ずつでした。一陽では、橋本施設長が施設概要や、運営について説明しました。皆さんからは、児童養護施設として素晴らしいとの評価と共に、市民が多額の寄付などを行い地域と市民に密着している運営に感心したとの感想でした。

また帰りの際には、日本円とシンガポールドルでの激励カンパもいただきました。

2011.6.7

6月3日 越前市.西地区児童民生委員さんが視察来訪

「一陽」が開設されてから二か月が過ぎ、子供たちや職員も少しずつ新生活に慣れてきました。そこで六月から視察の申し込みをいただいた皆さんの来訪をお受けすることになりました。その最初の視察として6月3日午前10時から越前市西地区児童民生委員の皆さん18名を迎えました。

三階の多目的ルームで施設の概要説明を行い、その後、施設内を案内しました。皆さんからは、子供たちの生活についての質問や、整備された施設に、素晴らしい児童養護施設ですね、などの声をいただきました。

こうした視察の要望は今後も多くの方からいただいております、七月中旬までに8団体を迎える予定です。(視察の受け入れは、原則として火曜日と金曜日、約1時間30分以内、人数は15人程度までとお願いしています)

2011.6.4

5月5日 越前市ちびっ子フェスティバル会場（中央公園）



新企画「地域の えんがわ」オープン

越前市自立支援協会など11の福祉関連団体が、5月5日に開かれた越前市中央公園でのちびっ子フェスティバル会場で「地域のえんがわ」という新企画の福祉ネットワークの場を開設し、各団体の活動交流と合わせ、施設利用者も含めた当事者が気軽に自由に集いあえる「居場所、えんがわ」に集いました。

当日は天候にも恵まれ会場は親子連れの子供も達の笑顔があふれていましたが、「地域のえんがわ」でも、関係者が「えんがわ」に座りコーヒーを飲みながら、同じ福祉施設に働く者としての楽しみや苦勞、今後の展望などを語り合い、今後ともネットワークを維持しながら互いに助け合い協力して当事者中心の福祉活動を発展させようと誓いました。

「地域の えんがわ」協働運営組織

越前市社会福祉協議会： 陽光会〔あいの里・ひまわり作業所〕： エンジェルキッズ： 芦山会〔サニーワーク・アップ〕：

越前自立支援協会〔児童養護施設一陽〕：ピノキオ： 自立支援ネット： 野尻医院〔ままのて・てまり〕： ケア・サポート春駒： オレンジサポーターズ〔南地区子育て支援委員会〕： NPO 法人丹南市民自治研究センタ

4月29日 **サンドームの「ふくい雇用セミナー」で求人面接会**

24人の学生が、越前自立支援協会ブースを訪問



4月29日に越前市のサンドーム福井で開かれた「ふくい雇用セミナー」会場で越前自立支援協会は来春採用計画にもとづき、合同就職面接会を行いました。この雇用セミナーは、福井労働局、福井県、ハローワーク、福井商工会議所、ふくいジョブカフェなどが合同で企画開催しているもので、当日は188事業所が参加しました。

越前自立支援協会「一陽」のブースには開始時間と同時に県内外の大学や高専などの学生が訪れ、全体では21名が児童養護施設「一陽」の事業内容や労働条件など真剣に聞き入っていました。

なお、越前自立支援協会の具体的な求人内容は「ハローワークたけふ」で知ることができます。また、事前に施設見学などの希望がある場合は電話やメールで問い合わせして下さい。

2011/4/30

引っ越しにトラック協会がボランティア、力強いご支援でした。



3月27日、児童養護施設「一陽」へ旧「進修学園」から児童達の荷物や家具などの大がかりな引っ越し作業が行われました。それに関して福井県トラック協会の皆さんが引っ越しを手伝ってあげようとトラック二台と21名もの部隊が応援に来てくださいました。

作業はさすがに手慣れたもので、おかげで予想した時間より一時間以上も早く終わり、職員一同も子ども達も大感激でした。いろいろな方からのご支援やボランティアをいただいておりますが、引っ越しにトラック協会の皆さんのご支援、まさに力強く頼もしいご支援でした。ほんとうに有難うございました。

また当日は越前市の児童家庭課、市職員組合有志の皆さん20名近くもお手伝いに来ていただきました。有難うございました。

2011/3/29

一陽 落成式盛大に開かれる



3月14日、児童養護施設「一陽」の建物が完成し、福井県、越前市、県議会、市議会、地元の南地区自治振興会、行松町をはじめ、多くの来賓各位のご祝意をいただく中、落成式が盛大に開かれました。

式典の中で福塚昭雄理事長は、「多くの方々のご支援をいただき、子どもたちが温かく見守ら

れていることを実感できる施設が完成したことに感謝しています。

素晴らしい住環境の中で職員がチームケアによって子どもたちの生活を支え、施設からの旅立ちの支援と施設退所後のアフターケア、自立支援の対応などに十分意を用い、子ども達の生活と教育の場としての実をあげるため、職員一同、一層の努力を致します。」と述べた。

2011/3/14

